# 文科省：IT 理系分野『実証授業』実施報告書

**■実証授業の目的**

本実証授業では、DX の実践で重要な変革案の創出方法を、顧客体験価値の実現という観点から学ぶのが目的です。顧客体験価値を実現している多くの事例が、困りごとを解決し、あるべき姿を創出していることを学ぶことで、身の回りにある変革案に気づけるようになり、みずから変革案を創出するための素養が身につくことが期待できます。

受講生が将来どこの国のどのような専門性の職業に進んだとしても、顧客体験価値を実現するあるべき姿を創出し、周囲の人々を巻き込んで小さな改善を積み重ねていくこと、さらには変革案を推進することは重要な能力です。

実際ＤＸ実践するために誰もが身につけるべきスキルとして、経産省が定めたＤＸリテラシー標準の中のマインド・スタンスにおいて、「顧客・ユーザーへの共感」や「(顧客・ユーザーの課題に対応するための)常識にとらわれない発想」として記述されています。

【参考】デジタルスキル標準　ver1.2　2024 年 7 月

< https://www.ipa.go.jp/jinzai/skill-standard/dss/ps6vr700000083ki-att/000106872.pdf>

**■実証授業の参加者**

2026 年 1 月 19 日(木)　PM2 時～4 時 20 分に実施

参加者人数は 66 名

（内訳）

留学生：58 名　（課題提出対象は 27 名）　＃教室に集合して受講

社会人：8 名（教職員含む）　＃リモード参加など

**■実証授業の概要**

２時間の講座受講で顧客体験価値と変革案抽出の考え方を学び、講座受講後の宿題提出と提出内容に対するフィードバックを個別にすることで理解を深める構成になっています。

**・講座の構成**

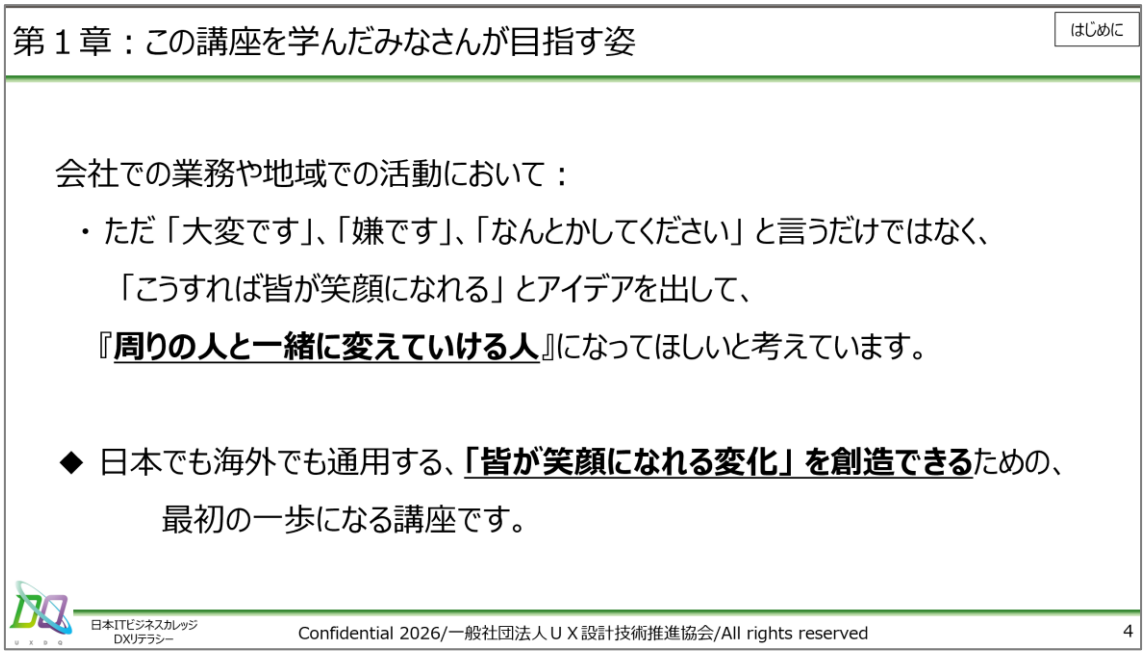
講座については、以下の章立てで進め、最後の８章で宿題を説明しました。

第１章：はじめに
第２章：ユーザー体験価値（UX）
第３章：価値とは
第４章：[1].今の「困りごと」を見つける力
第５章：[2].「こうなったら良いな」を考える力
第６章：[3].『 理想とするあるべき姿（To Be）』の良さを納得させる力
　　いろんな事例を通して理解しよう
第７章：本講座を学んだみなさんに期待すること
第８章：まとめ と 宿題の説明

**・本講座の特徴**

以下、７つの工夫をおこなって学びの動機づけ、理解の促進、将来への動機づけを実施しました。

① 冒頭で、本講座の狙いと目標、学び方を以下のように説明し、学びの動機づけをしたこと



## 第１章：目標（ゴール）



・**「皆が笑顔になれる変化」の創造 に向けて、３つの力を理解しましょう**

**1. 今の『困りごと』を見つける力**

・『今 “As Is”』を具体的に記述して、潜んでいる困りごとを具体的に記述する力です

**2.『こうなったら良いな』を考える力**

・困りごとを笑顔に変えるための『 理想とするあるべき姿（To Be）』
その実現に一定の法則性があることを理解し、考える力の起点にできます

**3.『 理想とするあるべき姿（To Be）』の良さを納得させる力**

・『今の困り事（As Is）』と『理想とするあるべき姿（To Be）』の違い（差分）を示し
他人に『理想とするあるべき姿（To Be）』の良さを納得させることができます。
この力は、まわりの人と一緒に具体的なソリューションを考える起点となります。


Confidential 2026/一般社団法人ＵＸ設計技術推進協会/All rights reserved


## 第１章：学び方



・**皆さんの日常や、仕事の現場で話題になった商品やサービスを事例に３つの力を学んでいきます**

⇒ 特別な力ではなくて、身近に活用できる力だと理解してもらいたいからです

✓ 困りごとを見つけ、笑顔に変えた事例として、日本の猛暑対策の定番の入れ替えがあります。
・「冷却ネックリング」は2022年のヒット商品No.3*です。
それ以前の「クールタオル」は2013年のヒット商品No.8*でした。



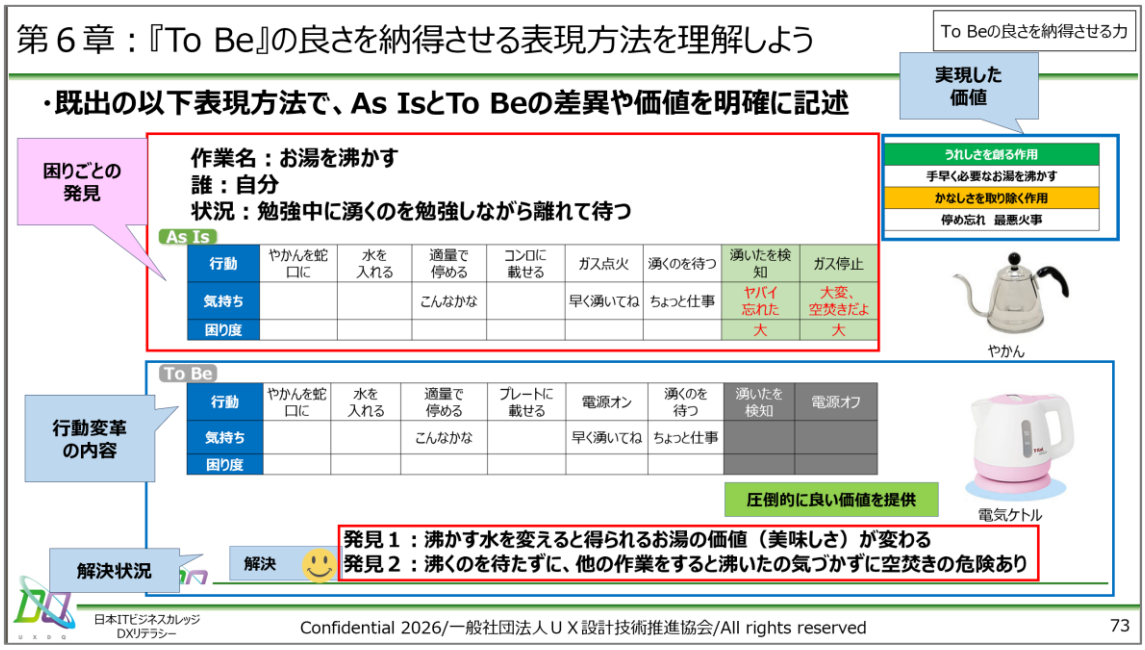




*:日経トレンディ ヒット商品ベスト30


Confidential 2026/一般社団法人ＵＸ設計技術推進協会/All rights reserved

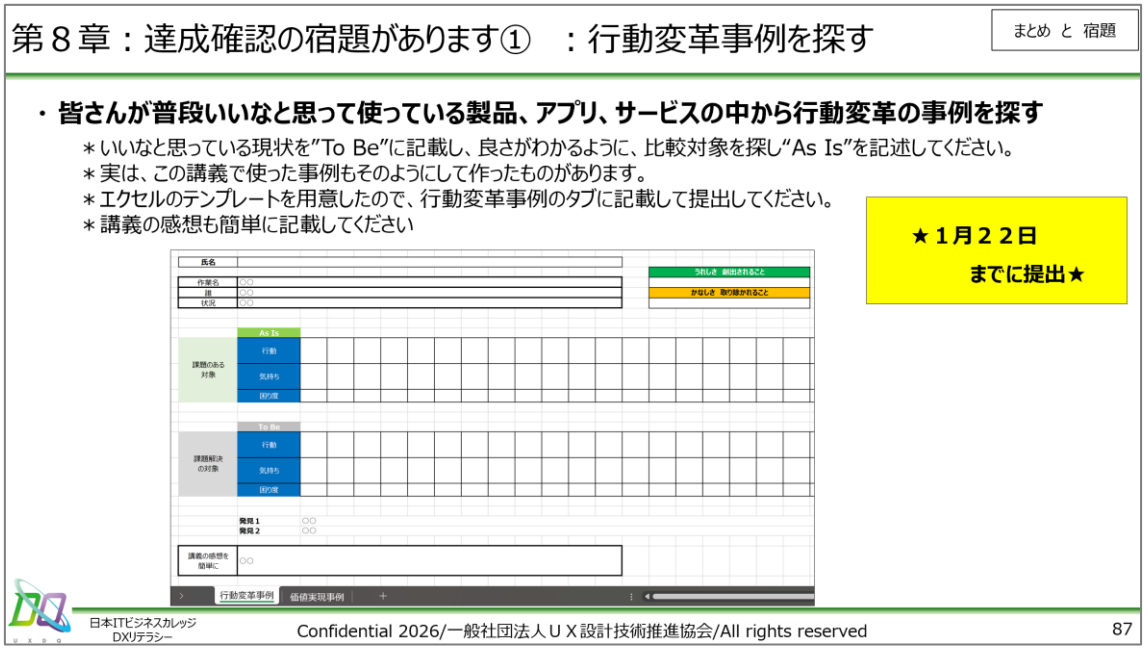
② 理解すべき３つの力は、それぞれに対応した”As Is” ”To Beと価値” “As Is/To Be 比較”書式として理解しやすくしたこと




③ 数多くの身近な事例を②の書式に当てはめて繰り返し説明し、書式を通して理解を促進したこと。（以下はその一部）



④　受講者の身近な事例を、講座で学んだ書式で記述する宿題で理解の確認をできるようにしたこと




⑤　宿題に対して講師からコメントをフェードバックすることで理解を深めるようにしたこと

＊以下の例では”As Is” “To Be”の記述の修正例を赤字で示し、課題に対するコメントを一番下に「添削コメント」として記述している。（詳細は別章にて報告する）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業名 | 蚊を気にせず、快適な夏を過ごす | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 誰 | 一人暮らしの学生・社会人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 状況 | 夏の夜、部屋で勉強やスマホをしているとき | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | うれしさ 創出されること | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 安心して快適な夏を過ごせる | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | かなしさ 取り除かれること | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 蚊の心配、火の不安、準備の手間 | | | | | | | |
| | As Is | | | | | | | | | | | | | | | ★蚊取り線香の使用 | | | | | | | |
| 課題のある対象 | 行動 | 1) 蚊に刺される | | 2) 蚊の音が気になり集中できない | | 3) 蚊取り線香を出す | | 4) 火をつける | | | | 夕方に蚊取り線香を準備 | 蚊取り線香をセット | 火をつける | 放置 | 翌朝、灰を片付ける | | | | | | | |
| | 気持ち | 1) イライラする | | 2) 火が心配 | | 3) 準備が面倒 | | | | | | 良かった、まだ残ってた | 倒さない場所に | 注意して | 注意して | 面倒 | | | | | | | |
| | 困り度 | 大 | | 大 | | 中 | | 中 | | 大 | | 中 | 大 | 中 | 中 | 大 | | | | | | | |
| | To Be | | | | | | | | | | | ★シンカトリの使用 | | | | | | | | | | | |
| 課題解決の対象 | 行動 | 1) スイッチ一つで蚊対策ができる | | | | 2) 火を使わない | | 3) 静かに蚊を防ぐ | | | | 夕方に蚊取り線香を準備 | 夕方、シンカトリをひっくり返す | 火をつける | 放置 | 翌朝、シンカトリをひっくり返す | | | | | | | |
| | 気持ち | 1) 安心 | 2) 快適 | 3) ストレスがない | | | | | | | | | 簡単 | | 安心 | 簡単 | | | | | | | |
| | 困り度 | 小 | 小 | 小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 解決 | 発見１ | ○○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 解決 | 発見２ | ○○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講義の感想を簡単に | 普段あたりまえだと思っていた「蚊対策」でも、行動・気持ち・困りごとに分けて考えることで、本当の不便さや不安に気づくことができた。小さなストレスを減らすことが、快適さや安心につながると学んだ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 添削コメント | 講義の狙いである、行動を追って記載する考え方も理解したようで、良かったです。より理解が進むよう講義で紹介した蚊取り線香、シンカトリを例にTo Beを記載しました。行動の分解の仕方を理解する参考にしてください。メーカーのサイトに商品の説明が掲載されているので、こちらも参照してください <https://www.kincho.co.jp/seihin/insecticide/katori/shinkatori/index.html> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

⑥　最初に示した将来像に向けてのロードマップと現在位置を示し、今後の動機づけにしたこと

## 第７章：皆が笑顔になれる変化を創造するまでの成長ステップ

みなさんに期待すること

**・講義では、3まで説明し、手法は理解できたはず。今後は5までできる人材を目指しましょう。**

| | 対象スキル | 手法 | 理解 | 試行 | 実践 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 今の困りごとを見つける力 | As Is 記述 | 講義済み | 宿題 | |
| 2 | こうなったら良いなの考え方を理解 | To Be /価値記述 | 講義済み | 宿題 | |
| 3 | 『 理想とするあるべき姿（To Be）』の良さを納得させる考え方を理解 | As Is /To Be /価値記述 | 講義済み | 宿題 | |
| 4 | 『 理想とするあるべき姿（To Be）』を考案できる | As Is /To Be /価値記述 | | | |
| 5 | 困りごとを解決できる<br>具体的なソリューションの議論を推進できる | As Is /To Be /価値記述 | | | |


Confidential 2026/一般社団法人ＵＸ設計技術推進協会/All rights reserved


⑦　当協会の開発した DX リテラシーを判定する質問 25 問の一部 7 問を抜粋し、受講後の受講生レベルを確認した。結果を社会人の平均レベルと比較して個別にフィードバックすることで、現在レベルの確認と将来に向けたスキル習得の方向性などを意識できるようにした。
採点結果などは、別章にて報告する。

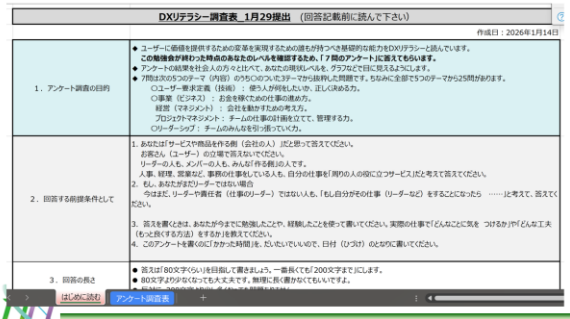
## 第８章：達成確認の宿題があります　その②

まとめ と 宿題

**・皆さんの現時点でのDXリテラシーを把握したいので、７の質問に答えてください**

・当協会で運営しているDXリテラシーレベル判定質問の一部抜粋です
・判定結果と解説は皆さんにお伝えします
・回答用のエクセルシートをお渡しします

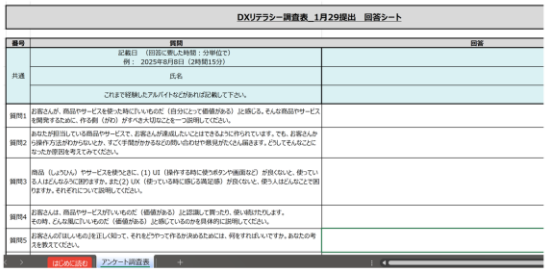
**★１月２９日**
**までに提出★**


DXリテラシー調査表_1月29提出　（回答記載前に読んで下さい）

作成日：2026年1月14日

| | |
|---|---|
| 1．アンケート調査の目的 | ● ユーザーに価値を提供するための営業を実現するための誰もが持つべき基礎的な能力をDXリテラシーと読んでいます。<br>**この勉強会が終わった時点のあなたのレベルを確認するため、「７問のアンケート」に答えてもらいます。**<br>◆ アンケートの結果を社会人の方々と比べて、あなたの現状レベルを、グラフなどで目に見えるようにします。<br>◆ 7問は次の5つのテーマ（内容）のうちどのついたテーマから抜粋し、出題です。ちなみに全部で5つのテーマから25問があります。<br>〇ユーザー要求定義（技術）：使う人が何をしたいか、正しく決める力。<br>〇事業（ビジネス）：お金を稼ぐための仕事の進め方。<br>経営（マネジメント）：会社を動かすための考え方。<br>プロジェクトマネジメント：チームの仕事の計画を立てて、管理する力。<br>〇リーダーシップ：チームのみんなを引っ張っていく力。 |
| 2．回答する前提条件として | 1. あなたは「サービスや商品を作る側（会社の人）」だと思って答えてください。<br>お客さん（ユーザー）の立場で言えないでください。<br>リーダーの人も、メンバーの人も、みんなが「作る側」の人です。<br>人事、経理、営業など、事務のお仕事している人も、自分の仕事を「周りの人の役に立つサービス」だと考えて答えてください。<br>2. もし、あなたがまだリーダーではない場合<br>今はまだ、リーダーや責任者（仕事のリーダー）ではない人も、「もし自分がその仕事（リーダーなど）をすることになったら ……」と考えて、答えてください。<br>3. 答えを書くときは、あなたが今までに勉強したこと、経験したことを使って書いてください。実際の仕事で「どんなことに気を　つけるか」や「どんな工夫（もっと良くする方法）をするか」を答えてください。<br>4. このアンケートを書くのに「かかった時間」を、だいたいでいいので、日付（ひづけ）のとなりに書いてください。 |
| 3．回答の長さ | ● 答えは「80文字くらい」を目指して書きましょう。一番長くても「200文字まで」にします。<br>● 80文字より少なくなっても大丈夫です。無理に長く書かなくてもいいです。 |

はじめに読む　アンケート調査表


DXリテラシー調査表_1月29提出　回答シート

| 番号 | 質問 | 回答 |
|---|---|---|
| 共通 | 記載日　（回答に要した時間：分単位で）<br>例：　2025年8月8日（2時間15分） | |
| | 氏名 | |
| | これまで経験したアルバイトなどがあれば記載して下さい。 | |
| 質問1 | お客さんが、商品やサービスを使った時にでいいもの（自分にとって価値がある）と感じる、そんな商品やサービスを開発するために、作る前（分析）がすべき大切なことを一つ説明してください。 | |
| 質問2 | あなたが担当している商品やサービスで、お客さんが達成したいことはできるように作られています。でも、お客さんから操作方法がわからないとか、すごく手間がかかるなどの問いのわけや原因がたくさん届きます。どうしてもなくさになったか原因を考えてみてください。 | |
| 質問3 | 商品（しょうひん）やサービスを使うとき、(1) UI（操作する時に使うボタンや画面など）が良くないと、使っている人はどんなふうに困りますか。また(2) UX（使っている時に感じる満足感）が良くないと、使う人はどんなことで困りますか。それぞれについて説明してください。 | |
| 質問4 | お客さんは、商品やサービスが「いいもの（価値がある）」と認識して買ったり、使い続けたりします。<br>その時、どんな風にでいいもの（価値がある）」と感じているのかを具体的に説明してください。 | |
| 質問5 | お客さんの「ほしいもの」を正しく知って、それをどうやって作るかがあるためには、何をすればいいですか。あなたの考えを教えてください。 | |

はじめに読む　アンケート調査表


Confidential 2026/一般社団法人ＵＸ設計技術推進協会/All rights reserved

**■実証授業受講者への配慮**

**・事例と説明の流れの確認**

受講者の主属性が留学生と決まったことにより、説明が理解できるか、説明で用いる事例が理解できるか、などの懸念が明らかになった。このため、事前に 30 ほどの事例案と説明を学校側と共有し、受講生に理解できるかを確認した。

この結果得られた、受講生に理解しやすい事例を授業では採用した。

また、当初の説明案では、文字が多いとのことだったので、一貫して用いているテンプレートの構造を簡略化や、説明に用いるユースケースを簡略化するなどして、わかりやすく文字の少ないテキストへと修正していった。

さらに、事例理解の役立つ商品紹介などのビデオ映像を併用して、テキストの文字を追わなくとも理解できるような工夫を実施した。

**・N3 レベルの日本語を使用**

学校側から、N3 レベルの日本語を用いることの指示や、普段の講義レベルのスライド見本などが参考として提示されたため、テキスト修正に反映させた。

当日の説明においても、N3 レベルの日本語を用いることや、話し方の速度などで意識した。

**■授業の進め方**

**・Zoom を用いたハイブリット形式（録画実施）**

講師はリモートで参加、受講対象学年の留学生 27 名と、聴講対象学年の留学生 31 名は、それぞれ教室に集まっての受講。その他、教職員等の社会人受講生 8 名はリモートで参加した。

参考に、講師側の画面と受講生の受講中教室風景を以下に紹介する。





＊受講中の教室の様子（前から左半分）



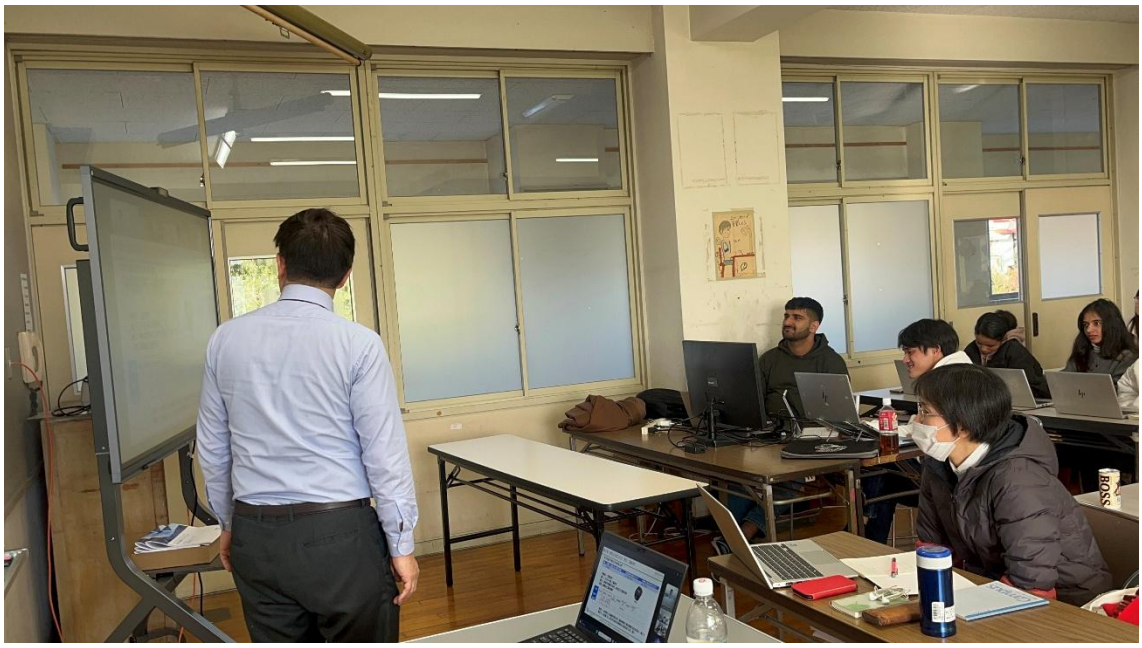
＊受講中の教室の様子（後ろから右側）

**・随時双方向形式で実施**

　教室内に同席してくださった教職員の方（田中先生）がファシリテーターとして積極的に関与し、双方向の講義になる工夫をしてくださいました。

　例えば、受講生の理解を促進するための質問を講師に投げる、紹介した事例について受講生は知っているかを問いかけて挙手させる、などの関与です。

　受講生の理解状況がわかるので、講師側としても非常に助かりました、ありがとうございます。



＊同席している教職員の方の様子

■学生の反応・成果

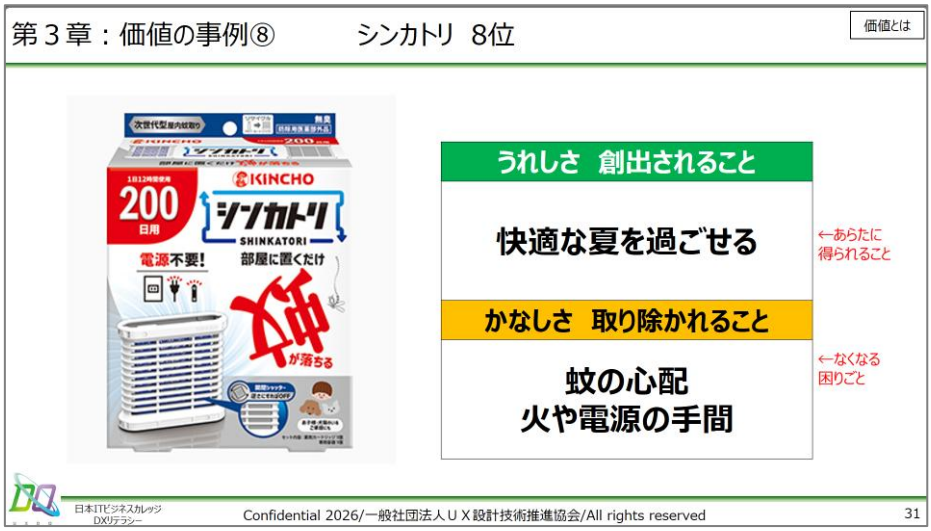
**・講義中の印象的な反応**

受講した留学生は米文化圏の方が大勢だったため、事例として選んだ炊飯器を使った炊飯に至る行動の流れはわかりやすく好評だった。他方、売れ筋の炊飯器の価格に２万円から８万５千円までの幅があること、一番の売れ筋が６万円代で、お米の美味しさが高くても売れる理由であることについては理解できないとの反応でした。

美味しいお米を尊ぶ日本人の価値観や、高いお金を払える日本の経済力が自分たちの国とは異なることや、その理由などに話題が拡がったのは有意義だったと考えています。




2024 年の日本のヒット商品の紹介として電池や電源の要らない蚊取り商品を紹介したところ、最初は反応がなかったが、ファシリテーターから”Mosquito repellent”は、君たちも使っているでしょ？と問いかけたのをきっかけに、なるほどと反応があった時は、商品のパッケージ写真だけでは説明不足だったなと反省しました。特に課題事例として、この蚊取り商品を選んだ受講生が 2 名いたことから、実は関心の深いカテゴリーだったと改めて認識しました。



**・受講生の感想文からわかる反応と成果**

**[講義の目標達成を示す感想が得られた]**

課題対象受講者 27 名のうち、19 名から感想文を提出してくれた。このうち、11 名が講義の目標として掲げた**３つの力が役立つことを学べた**という内容だったのは大きな成果といえます。講義構成の工夫で示した①～④が効果的だったとも考えられます。

特にその中でも、i)今回学んだことを将来に活用したいと述べている 3 名や、ii )講義で大切だと教えた顧客視点の大事さを述べた 3 名が含まれていることを特筆したい。

なお、3 つの力とは以下で、11 名からの感想文を以下に列挙します。

(1)今の『困りごと』を見つける力⇒[As Is の記述]

(2)『こうなったら良いな』を考える力⇒[To Be の記述]

(3)『 理想とするあるべき姿（To Be）』の良さを納得させる力⇒[As Is /To Be の比較]

| |
|---|
| 日々の困りごとから、新たな商品やサービスを作り出すという発想や具体例が非常に興味深く、また素晴らしいと思いました。この度頂いた課題では、**自分自身の困りごとを分析**し、解決へと思索してみました。そうした結果、その困りごと一つ一つについて解決可能なサービスを作り出すことも十分可能であると考えられるようになりました。**今後、機会を探り、自分自身もそのサービス構築に携わりたいという夢が出来ました。**非常に面白く、発想や視野が広がる講義を、ありがとうございました。 |
| UXの考え方を使うことで、課題を整理し、行動に移しやすくなると感じました。**今後の学習や仕事でも活かしていきたいです。** |
| DXとは単なるIT化ではなく「自分の価値をどう届けるか」という考え方だと学びました。留学生として、時間制限がある中でデジタルを活用し、自分のスキルを収入に変える視点を持てたことは大きな収穫です。**今後は効率的に価値を生み出す工夫を実践したいです。** |
| 身近な行動をAs Is / To Beで整理することで、<br>日常にある小さな不便が課題であることに気づいた。<br>**利用する人の気持ちを考える**ことが、良い解決につながると学んだ |
| 普段あたりまえだと思っていた「蚊対策」でも、行動・気持ち・困りごとに分けて考えることで、<br>本当の不便さや不安に気づくことができた。<br>小さなストレスを減らすことが、快適さや安心につながると学んだ。 |
| 今回の講義を通して、<br>「行動・気持ち・困り度」を整理して考えることの大切さを学びました。<br>**相手の立場に立って考える**ことで、よりよい支援や課題解決につながると感じました。 |
| 現状と理想を分けて考えることで、課題が感情と行動の両面にあると気づけた。 |
| 洗濯の「困りごと」を細かく分解して整理すると、どこを改善すれば快適になるかが明確になった。<br>待つ時間や操作の迷いも、工夫次第で大きく減らせることを実感した。 |
| 日常の「ゴミ捨て」という小さな行動を深掘りすることで、ユーザーが抱える「孤独感」や「社会に受け入れられたい」という深いニーズが見えてきました。<br>機能的な解決だけでなく、ユーザーの「不安な気持ち」を取り除くデザインが重要だと学びました。 |
| As Is と To Be を分けて考えることで、<br>問題の本質と価値の違いが分かりやすくなった。 |
| 普段何気なく使っているサービスでも、行動や気持ちが変わっていることに気づいた。 |

**[多くの事例で説明する学び方が認められた]**

構成の工夫①③で示したように多くの事例を用いて説明したこと、しかも事前に今回の受講生に理解しやすい事例を調整したこともあり、身近な困りごとに着目する大切さや、面白く分かりやすい講義であったとの感想以下のように 5 名から得られています。

| |
|---|
| 身近な問題からアイデアを考えることが大切だと分かりました。 |
| 洗濯機を使う中でも、困りごとがあると分かりました。<br>**利用者の立場で考える**ことが大切だと思いました。 |
| 身近なサービスを例にしていて、**とても分かりやすい講義**でした。 |
| この講義は**分かりやすくて面白かった**です |
| **とてもおもしろかった。**自動でご飯作る炊飯器がすきです。 |

**[課題を検討する中で学びが深まった]**

構成の工夫④で示した、講義で説明した行動変革事例を自分で探して記述する課題①を実施する中で、理解が深まったという感想も 3 名から得られています。

課題に選んだ事例に言及してる以下の感想を、課題の成果として示します。

| |
|---|
| 社会人の学習では、努力よりも続けやすい仕組みが重要だと感じました。Duolingoは、その良い例だと思いました。 |
| 言葉の壁をこえるユニバーサルデザインが、留学生の安心につながることを学びました。 |
| レジの流れ（ワークフロー）を考えることの大切さに気づいた |

＊以上で 19 名から得られた感想の全部となります。

■課題①の提出状況

21 名から提出がありました。

**・新規提案が多く、素晴らしい提案があった**

先ず、特筆したいのは 10 名が、あるべき姿の対象として、みずから考えた新規提案を選んだことです。日頃感じている困りごとの解決に、講義で学んだ手法を適用しようという意欲を感じました。

今後、実務への適用に発展することに期待したいです。

特に、介護者の通院付き添いという困りごとを対象に To Be の提案を提出した方の記述は非常に練られていて、そのままで関係者との議論を開始できる、素晴らしい内容でした。（下図）



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業名 | 高部者の通院付き添い | | | | | | | | | | | | | | | | うれしさ　創出されること<br>状,体調、病院の都合を優先して通院日を決めることが出 | | | | | | |
| 誰 | 高部通院者の家族 | | | | | | | | | | | | | | | | かなしさ　取り除かれること | | | | | | |
| 状況 | 仕事を持っている家族が、通院の為に仕事を休むのが困難な状況 | | | | | | | | | | | | | | | | 仕事を休むストレスと、その作業と時間 | | | | | | |
| | As Is | 通院日まで | | | 通院日当日 | | | | | | | | | | | | | 通院日以後 | | | | | | |
| 課題のある対象 | 行動 | 休む候補日を上司,同僚に相談 | 休める候補日を決定 | 休む為に、仕事等準備しておく | 玄関で母を車イスにのせ、院内で待機させる | 駐車して、母と合流 | 病院受付(診察券・マイナンバーカードの確認) | 診察時、次回通院日を相談・決定 | 診察後、薬局へ処方箋提出 | 診察後、病院支払い手続き | 食事 | 診察結果を家族にライン連絡 | 病院へ支払い | 院内で難病指定記録に記載してもらう | 薬局で薬受取、支払い | 次回通院日を上司,同僚に報告 | | | | | | | |
| | 気持ち | ・気を遣う<br>・迷惑をかけて申し訳ない<br>・休めるか不安<br>・仕事に支障がでないか不安 | ・候補日が決まってよかった<br>・しかし周りの人に気を遣う<br>・休む日までに必要な仕事 | ・日常の仕事や生活のペースが乱れるのがストレス | ・車イスがまだあるか<br>・玄関に駐車しているので急ぐ必要あり | ・駐車可能か<br>・早く受付をしたい<br>・とにかく急ぐ必要あり | ・待ち時間が長い<br>・マイナンバーカード等の個人情報あるものは他人に預ける必要があるのは困難 | ・担当医の勤務日と合うか不安<br>・次回通院日が決まるとうれしい、ホッとする | ・マイナンバーカードが必要な為、他人に頼むのは困難<br>・待ち時間が長い | ・診察が終わってホッとする<br>・待ち時間等が長い | ・診察が終わってホッとする<br>・食事中、母が気難に食事をこぼさないよう注意 | ・検査結果等写メするのが面倒<br>・文章を打つのが面倒 | ・待ち時間あり<br>・支払いを他人に頼みにくい | ・記載してもらうのを忘れそうになる | ・待ち時間長い<br>・支払いを他人に頼みにくい | ・やはり気を遣う<br>・報告が終わりホッとしてうれしい<br>・休む為に迷惑をかけるのがストレス | | | | | | |
| | 困り度 | 大 | 大 | 大 | 大 | 小 | 大 | 大 | 大 | 中 | 小 | 小 | 小 | 中 | 大 | 大 | | | | | | | |
| | To Be | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題解決の対象 | 行動 | 安心できる付き添いサービスがあれば、利用したい。 | | | | | 個人情報が関係するマイナンバーカード等の手続きは事前にオンラインで済ませるシステムが欲しい | | | 後日、口座引き落とし等で支払いが出来るシステムが欲しい。 | | | | デジタルデータで受理できれば、窓口に並んで記載してもらう必要なし | 後日、口座引き落とし等で支払いが出来るシステムが欲しい。 | | | | | | | |
| | 気持ち | ・休みをとる必要がなく助かる | | | | | ・個人情報を他人に預ける必要がなく安心 | | | ・当日、現金やクレジットカードを他人に預ける必要 | | | | ・病院の支払い内容の情報がデジタルデータで自動 | ・当日、現金やクレジットカードを他人に預ける必要 | | | | | | | |
| | 困り度 | 大 | | | | | 大 | | | 大 | | | | 中 | 大 | | | | | | | | |

**・行動に分割する方法の理解が不十分**

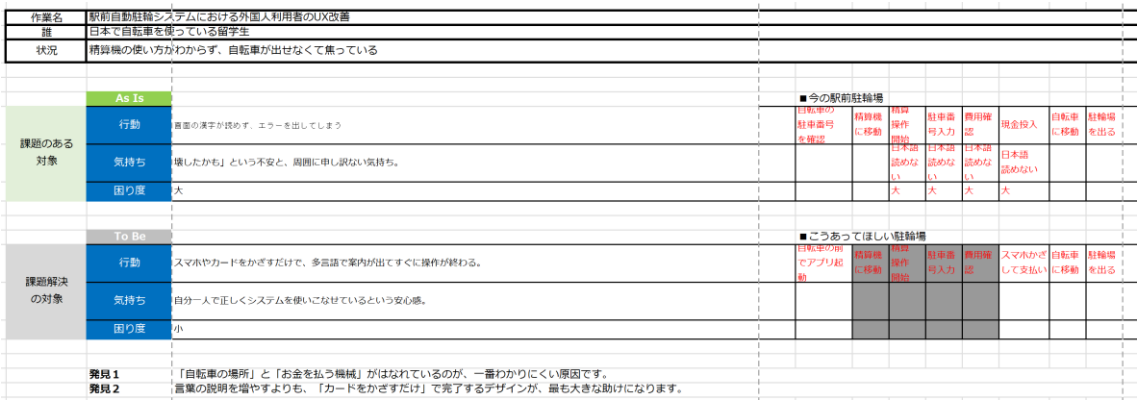
理解不足と感じた点は 2 つあり、一つが、困りごとを見つける[As Is の記述]において、行動に分割する方法の理解が不十分な点です。分割はできているが、少しおおざっぱな人が 4 名、行動の分割ができない人が 9 名でした。提出したテーマを例に分割記述の見本例を添削時に追記して各受講生に返却したので、理解が深まることに期待しています。

できるなら、講義するだけでなく、作業中にフィードバックができるワークの時間を設けることができると、より理解を深めることができるはずです。この点は今後の示唆にも記載しておきました。



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業名 | 蚊を気にせず、快適な夏を過ごす | | | | | | | | | | | | | | | | うれしさ　創出されること<br>安心して快適な夏を過ごせる | | | | | | |
| 誰 | 一人暮らしの学生・社会人 | | | | | | | | | | | | | | | | かなしさ　取り除かれること | | | | | | |
| 状況 | 夏の夜、部屋で勉強やスマホをしているとき | | | | | | | | | | | | | | | | 蚊の心配、火の不安、準備の手間 | | | | | | |
| | As Is | | | | | | | | | | | | | ★蚊取り線香の使用 | | | | | | | | | |
| 課題のある対象 | 行動 | 1) 蚊に刺される | | 2) 蚊の音が気になり集中できない | | 3) 蚊取り線香を出す | | 4) 火をつける | | | | | | 夕方に蚊取り線香を準備 | 蚊取り線香をセット | 火をつける | 放置 | 翌朝、灰を片付ける | | | | | |
| | 気持ち | 1) イライラする | | 2) 火が心配 | | 3) 準備が面倒 | | | | | | | | 良かった、また残ってた | 倒さない場所に | 注意して | 注意して | 面倒 | | | | | |
| | 困り度 | 大 | | 大 | | 中 | | 中 | | 大 | | | | 中 | 大 | 中 | 中 | 大 | | | | | |
| | To Be | | | | | | | | | | | | | ★シンカトリの使用 | | | | | | | | | |
| 課題解決の対象 | 行動 | 1) スイッチーつで蚊対策ができる | | | | 2) 火を使わない | | 3) 静かに蚊を防ぐ | | | | | | 夕方に蚊取り線香を準備 | 夕方、シンカトリをひっくり返す | 火をつける | 放置 | 翌朝、シンカトリをひっくり返す | | | | | |
| | 気持ち | 1) 安心 | 2) 快適 | 3) ストレスがない | | | | | | | | | | | 簡単 | | 安心 | 簡単 | | | | | |
| | 困り度 | 小 | 小 | 小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

↑分割がおおざっぱな例

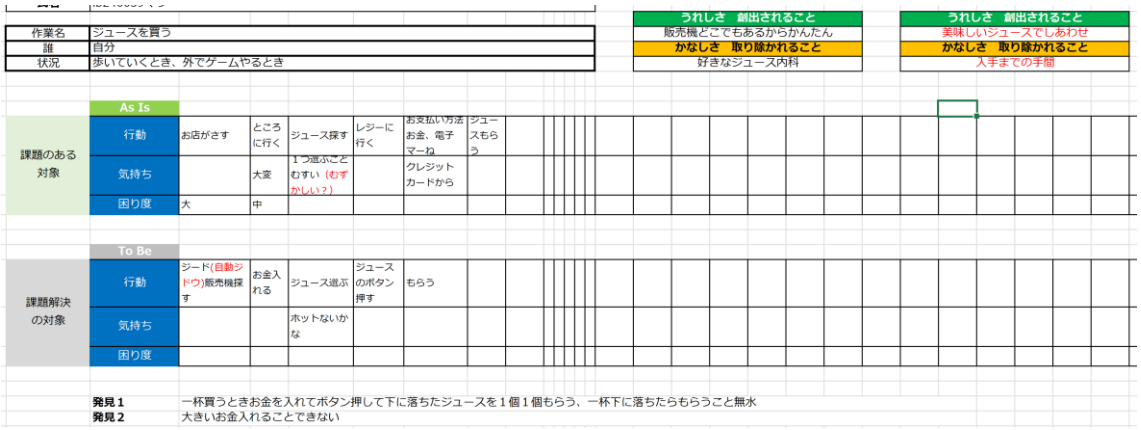



↑行動が分割できていない例

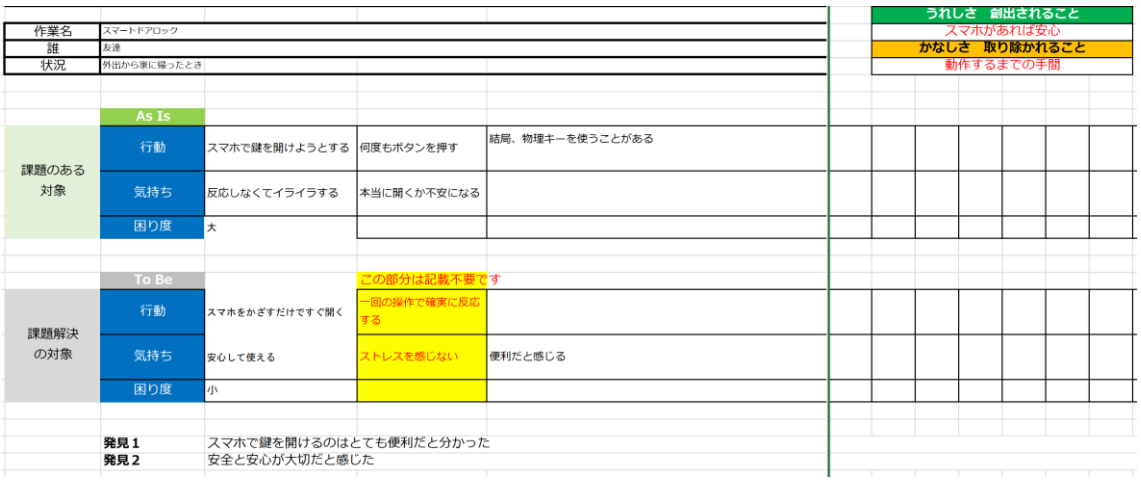
**・価値の記述の理解が不十分（書き忘れている？）**

価値の記述をしているが要修正の方が４名、そもそも記述してない（書き忘れた）方が４名でした。どちらも添削時に、例えばの例を追記して理解の助けとなることを期待しています。

この場合も、ワーク時間を設けたなら理解が進むケースと言えます。




↑価値の記述が要修正の例




↑価値が記載できていない例

■課題②DX リテラシーの把握

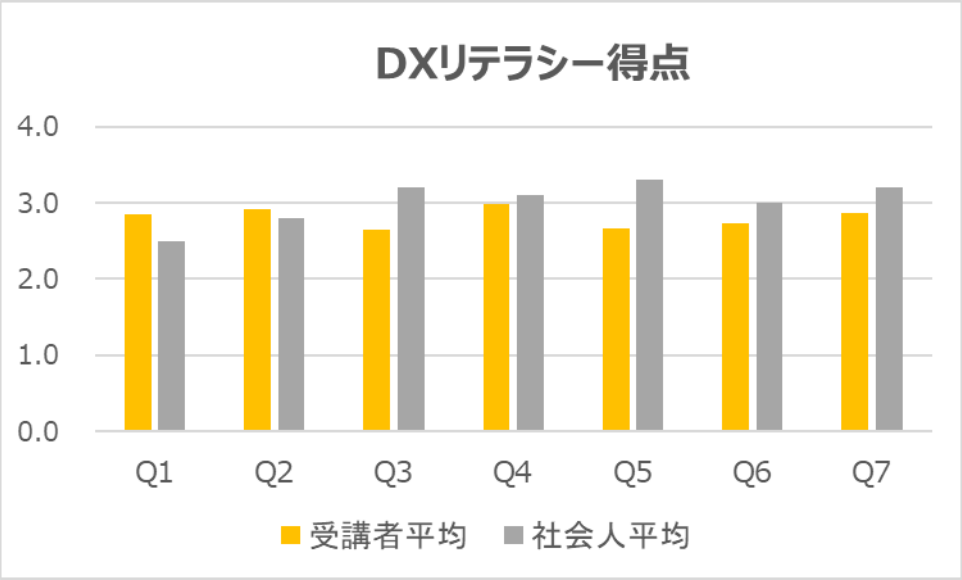
15 名から提出がありました。

課題①と比べて提出数が減ったのは、不慣れな実務的な質問に対して日本語で回答するのが容易でなかったためのようです。

各質問の回答から、DX 人材力がどのレベルであるかを以下の 10 段階で採点する仕組みです。
実務の現場でリーダーとして活動している方が 6 点程度で、7 点を超える人は滅多に居ません。
今回は学生なので、2 点程度の得点で、今後は 4 点を目指してくださいと講評するつもりだった。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **DX 人材力** | 1 － 2<br>概念を知る | **3 － 4**<br>**知識を理解し、人に説明できる** | 5 － 6<br>知識を実務で適用できる応用力 | 7 － 8<br>人を指導する体制構築力 | 9 － 10<br>組織戦略策定力 |

しかしながら対象とした 7 問の記述レベルは高く、その得点は比較対象の社会人一般と遜色ない結果だったことには驚かされました。




7 問のうち 4 つ（Q1,2,3,5）は、講座と関係の深い内容を選んだため、全体的に得点のばらつきも小さく研修の効果があったことが要因の一つと考えている。
残りの 2 つ(Q6,7)はリーダーシップに関する内容である。講座では触れていないため、得点のばらつきは大きかった。2 名ほど 4 点に達する回答ができていたのは。過去にアルバイトや社会人経験があったのではないかと想像しています。

今回の結果から、受講生たちのポテンシャルは非常に高く、今後社会に出ての活躍が期待できます。

回答のあった受講生には、DX リテラシー把握の考え方の概要説明と、7 問において 4 点を取るための解説と、個別の採点結果と今後 4 点を獲得できるようにするための個別コメントを付けて返却しています。

■今回の実証授業の課題と今後への示唆

課題①の報告で指摘したように、3 つの力の第一歩[1].今の「困りごと」を見つける力の理解が不足していて、課題①提出において行動を具体的に分割記述できない人が 13 名居ました。
また、行動の記述はできても価値の記述が不十分あるいは未記述の方がも 8 名でした。
講義を聞いてわかったつもりになっても、いざ自分で作業するとうまくできないというのは学習過程の中で普通に見られることと思います。

As Is / To Be /価値などを記述する作業をその場で記述し、指導するワークショップ時間を設定することで、より深く理解できるようになるのではないでしょうか。

今回の講義内容に関心を持ち、今後に活かしたいという意欲がうかがえるだけに、もう少し理解を深めておきたいと感じています。

ワークショップ時間の追加を今後の実証授業への提案とさせてください。

■納品物のリスト

1. 講座のテキスト
2. 課題①提出物に添削した各自返却用文章
3. 課題②の質問回答に各自の採点結果とコメントをつけた返却用文書
4. 課題②背景である、DX リテラシーの概要と、質問に回答するヒントを記述した配布用文章
5. 実施報告書（本文書）

＃３，４は個人ごとに合冊しています

以上